



本公演は、弘前藩4代藩主津軽信政の代に弘前城本丸に能舞台が建てられ、1674(延宝2)年11月2日と3日に藩主や藩士のほか町民を城内に招いて能楽が開催されてから350年を記念し開催するものです。

【第一部】開演10時30分(開場10時)

「解説」

仕舞 高砂

野月 聡 (宝生流)

独鼓 桜川

高林白牛口二 (喜多流)

狂言 茸

石田 幸雄 (和泉流)

能 羽衣 和合之舞

上野 朝義 (観世流)

小鼓 大倉 源次郎 (八間国宝)

太鼓 三島 元太郎 (八間国宝)

(終演予定12時)  
休憩)

【第二部】開演14時(開場13時30分)

「解説」

狂言 素袍落

山本 東次郎 (大蔵流)  
(八間国宝)

能 紅葉狩 鬼揃

観世 鏡之丞 (観世流)

小鼓 大倉 源次郎 (八間国宝)

太鼓 三島 元太郎 (八間国宝)



(終演予定15時50分)

「あらすじ」

「茸」(くさびら)

ある男の家に大きなきのがたくさん生えたので、山伏が祈禱で取り除こうとしますが、きのはほとんど増えるばかり。

舞台いっぱいなきのが登場する見どころの多い面白い作品です。

地元の子どもたちがきのご役に挑戦。「生懸命きのごを演じる姿にご注目ください。」

「羽衣 和合之舞」(はごろもわごうのまい)

三保の松原に住む白龍は、松の枝に掛けてある美しい衣を見つけて自分のものにしようとしますが、天女が現れ返してほしいと懇願します。天女は白龍を説得し、羽衣の引渡しを条件に舞を舞い、そのまま天空へと帰って行きます。

能を代表する人気曲で、音楽の教科書にも取り上げられています。

「素袍落」(すおうおとし)

主人の伯父を伊勢参りに誘いに行った太郎冠者は、酒を振舞われ、饑別に素袍(礼装の衣)をもらいます。上機嫌で帰っているところを主人に見つけられ…。太郎冠者の酔っぱらった姿が見どころの明るくにぎやかな名作です。

「紅葉狩 鬼揃」(もみじがりおにぞろえ)

信州・戸隠山を舞台とした鬼女退治の物語。前半の平維茂將軍一行を狙う美女(実は鬼女)の優雅な舞と、二転、後半の本性を現した鬼との激しい戦いは見ごたえ充分です。更に今回は「鬼揃」の特殊演出にて、より華やかな舞台となります。



<注意事項>

○未就学児の入場はご遠慮ください。○当日券は会場のみで販売します。○出演者は都合により変更する場合があります。○当日は主催者、及び関係者・メディアの撮影が入り、撮影したものは今後の広報・配信等に活用します。客席を含む会場内の映像・写真が公開される場合がありますので予めご了承ください。○関係者以外、上演中の撮影・録音・録画は固くお断りします。